臨床報告

清心蓮子飲による糖尿病治療の
長期経過

我妻 恵 本宮 雅吉

A Study on Long-Term Administration of Seishin-Renshi-In to
Patients of Non-Insulin-Dependent Diabetes Mellitus

Megumu AZUMA and Masakichi MOTOMIYA

M.D., Department of Internal Medicine, Sendai Teishin Hospital 4-5-1, Tyuhoh, Aoba-ku, Sendai-shi,
Miyagi 980, Japan

Summary Seishin-Renshi-In (TJ-111) (Qing-Xin-Lian-Zi-Yin) was administered to seven patients with non-insulin-dependent diabetes mellitus (NIDDM). Five years treatment with TJ-111 was three male patients, three years was one female patient, and two years was two female patients. All of them received 7.5g of TJ-111 per day, 30 minutes before every meal. Body weight and HbA_{1c} were examined and recorded at intervals during the whole period of administration.

Patients whose HbA_{1c} was increased by more than 8% transiently showed the increases of body weight. It was proved that it is important to keep the calorie intake at an appropriate level and to exercise every day for adjusting body weight even in the treatment of Kampo medicine. The patients who decreased body weight by daily training were considered to be "Kyo-Sho", and it is suggested to administer Seishin-Renshi-In for the treatment of NIDDM in the concept of Kampo medicine. No side effects were recognized in any cases of treatment with Seishin-Renshi-In.

Key words: Seishin-Renshi-In, non-insulin-dependent diabetes mellitus (NIDDM), HbA_{1c}, glycemic control, body weight control

Nihon Toyo Igaku Zasshi (Japanese Journal of Oriental Medicine), 45, 551-556, 1995

(accepted Jan 28 1994)

はじめに

漢方薬および生薬で、糖尿病の血糖降下作用が証明されたものは無いとされてきた¹⁾²⁾。

著者等は、北里大学東洋医学研究所の大塚先生の御講演で、清心蓮子飲が糖尿病に有効であった御経験を拝聴し、漢方治療を希望するインスリン

非依存型糖尿病 (NIDDM) 症例に、病名治療の立場で清心蓮子飲投与を試みた。

そして、これまで、NIDDM の血糖コントロールに、清心蓮子飲が有用であった症例を経験し報告した^{3)~5)}。今回は、清心蓮子飲により長期間血糖を良好にコントロールできた NIDDM の経過を報告し、清心蓮子飲による NIDDM の血糖コ

医, 仙台通信病院内科, 宮城, 〒980 仙台市青葉区中央4-5-1

[1994年1月28日受理]

図2 症例2 (62歳男性, 身長167.8cm) のHbA_{1c} (○) と体重 (●) の経過

図3 症例3 (52歳男性, 身長156cm) のHbA_{1c} (○) と体重 (●) の経過

図4 症例4 (69歳女性, 身長136.5cm) のHbA_{1c} (○) と体重 (●) の経過

図5 症例5 (71歳女性, 身長141cm, ラピタードインスリン12単位/日併用) のHbA_{1c} (○) と体重 (●) の経過

図6 症例6 (実線, 84歳女性, 身長150cm, ラビタードインスリン36単位/日併用) と症例7 (破線, 77歳女性, 身長155cm) のHbA_{1c} (○) と体重 (●) の経過

後1年間体重56kg, BMI 24.6, HbA_{1c} は10~11%であった。その後のダオニール増量と体重の減量により, 2年目からは, 体重約56kg, BMI 23.0, HbA_{1c} は約8%となった。HbA_{1c} は, 主に体重が増加した直後, それに伴って上昇することが認められた。また, 清心蓮子飲投与期間中副作用は認められなかった。

症例4は, 69歳の女性である (図4)。身長136.5cm 清心蓮子飲投与当初, GTT では糖尿病型を呈し, 体重52.2kg, BMI 28.0, HbA_{1c} は7.8%であった。清心蓮子飲投与1年後までに, 体重を約41kg, BMI 22.0に減量し, その後は45kg前後, HbA_{1c} は約6.6%で経過した。清心蓮子飲投与中副作用は認められなかった。

症例5, 6, 7は, それぞれ71歳, 84歳, 77歳の女性で, このうち症例5と6は, ラビタードインスリン併用例である (図5・6)。3例共, 2年間の血糖コントロールは, ほぼ良好であり, 清心蓮子飲投与中副作用は認められなかった。

考 察

提示した7例における清心蓮子飲による5~2年の経過中, HbA_{1c} が8%を越えて一時的に悪化した症例に注目すると, 悪化直前, または同時期に, 多くの場合, 体重増加を伴っていることが認められた。従って, NIDDMの清心蓮子飲による血糖コントロールの際, 西洋薬によるコントロールの場合と同様に, 食事療法および運動療法を基本としたウェイトコントロールのための生活指導は, 不可欠であることが示唆された。糖尿病による入院で体重を減少させると, 漢方医学的には, 虚証の傾向を作りだしていると考えられる。清心蓮子飲は虚証の薬方であり, このような症例に清心蓮子飲を投与することは, 漢方治療の立場からも適している可能性が示唆される。

報告した7例の症例の場合, 清心蓮子飲は病名治療の立場からの処方である。糖尿病の入院治療においては, 血糖を良好にコントロールすることが目的である⁹⁾。そして, 第一目標は, それを退院後も維持させるよう生活指導を行うための教育

入院ということである。従って、入院以後は、運動療法および食事療法によるウェイトコントロールを維持させることとなる。大多数のNIDDM患者は、治療前に比べ、体重を減少させそれを維持させることとなり、漢方医学的には虚証の傾向にあると考えられる。この過程で、病名治療によって清心蓮子飲を投与することは、結果的に随証治療で虚証の薬方を選択するのと同じく、その薬方が有効となる可能性が高いものと推測される。

まとめ

- 1) NIDDM 7例について、清心蓮子飲投与による5～2年の長期経過を観察し、副作用は認められなかった。
- 2) NIDDMの血糖コントロールにおいて、清心蓮子飲による場合も、西洋薬と同様、運動療法および食事療法によるウェイトコントロールは基本であると考えられた。
- 3) 教育入院中体重が減少し始めたNIDDMには、虚証の薬方が適することが示唆された。

結語

清心蓮子飲の長期投与によるインスリン非依存型糖尿病の血糖コントロールを行った例では、運動療法と食事療法によって至適体重が維持されていれば、経過は良好であった。

要旨 清心蓮子飲投与によりインスリン非依存型糖尿病の血糖コントロールを行い、5年の経過を追跡できた男性3例、3年の経過の女性1例、および2年の経過の女性3例の計7例を報告し、清心蓮子飲が有効に作用し得る条件を考察した。清心蓮子飲1日7.5gを食前30分に投与し、体重およびHbA₁の経過を記録した。

清心蓮子飲投与による5～2年の経過中、HbA₁が8%を越えて一時的悪化を呈した症例では、悪化直前、または同時期に体重増加傾向を伴っていることが多かった。従って、清心蓮子飲によるNIDDMの血糖コントロールにおいても、西洋薬によるコントロールの時と同様に、食事療法および運動療法を基本とした体重コントロールのための生活指導は不可欠であることが示唆された。生活指導により体重減少が始まった症例は、虚証の傾向にあると考えられ、清心蓮子飲投与は漢方医学的立場からも適することが示唆された。清心蓮子飲投与による副作用は認められなかった。

キーワード：清心蓮子飲，糖尿病，血糖，耐糖能，体重

NIDDMで血糖が良好にコントロールされた症例は、虚証傾向にあると考えられ、清心蓮子飲はこの様な症例に適することが示唆された。

文献

- 1) 湯原淳良：糖尿病における経口血糖降下剤やインスリンとの併用療法—漢方薬の意義について，医学と薬学，9：1759-1776，1983
- 2) 豊田隆謙：糖尿病，臨床成人病，9：1559-1564，1990
- 3) 我妻 恵，他：二次性糖尿病患者の血糖コントロールに有用と思われた清心蓮子飲の使用経験，和漢医薬会誌，5：380-381，1988
- 4) 我妻 恵，他：二次性糖尿病患者の血糖コントロールに対する清心蓮子飲の有用性，漢方診療：38-40，1989
- 5) Megumu Azuma, et al : A report of the usefulness of TJ-111, Tsumura Seishin-Renshi-In as a drug for the control of blood sugar. Recent progress diabetes mellitus in East Asia. Edited by G. Mimura, et al, pp. 337-340, Excerpta Medica international congress series, 997. 1992
- 6) K. Kataoka, et al : The beneficial effect of Seishin-Renshi-In (Qing-Xin-Lian-Zi-Yin) for NIDDM. Recent progress diabetes mellitus in East Asia. Edited by G. Miura, et al, pp. 341-344, Excerpta Medica international congress series, 997. 1992